



追加型投信／内外／株式

先進国好配当株式ファンド (3ヵ月決算型)／(3ヵ月決算型)為替ヘッジあり 決算・分配金のお知らせ

ファンド情報提供資料
データ基準日: 2023年5月8日

・当レポートではファンドの名称について、「先進国好配当株式ファンド(3ヵ月決算型)」を「(3ヵ月決算型)」、「先進国好配当株式ファンド(3ヵ月決算型)為替ヘッジあり」を「(3ヵ月決算型)為替ヘッジあり」という場合、またこれらを総称して「当ファンド」、各々を「各ファンド」という場合があります。

平素は「先進国好配当株式ファンド(3ヵ月決算型)」、「先進国好配当株式ファンド(3ヵ月決算型)為替ヘッジあり」をご愛顧賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、当ファンドは2023年5月8日に決算を迎え、基準価額水準、市況動向に加え、配当利回り等を勘案し、当期の分配金(1万口当たり、税引前)を以下の通りと致しましたことをご報告いたします。

分配金と基準価額(2023年5月8日)

(3ヵ月決算型)

分配金 (1万口当たり、税引前)	320円
基準価額 (1万口当たり、分配落ち後)	10,188円

(3ヵ月決算型)為替ヘッジあり

分配金 (1万口当たり、税引前)	5円
基準価額 (1万口当たり、分配落ち後)	10,174円

【分配金実績(1万口当たり、税引前)】

第25期 (2022年5月)	第26期 (2022年8月)	第27期 (2022年11月)
820円	120円	620円
第28期 (2023年2月)	第29期 (2023年5月)	設定来累計
20円	320円	8,985円

【分配金実績(1万口当たり、税引前)】

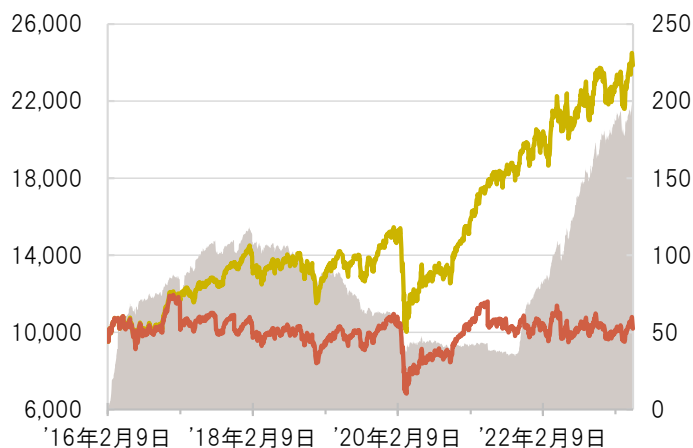
第21期 (2022年5月)	第22期 (2022年8月)	第23期 (2022年11月)
5円	5円	5円
第24期 (2023年2月)	第25期 (2023年5月)	設定来累計
205円	5円	4,525円

・運用状況によっては、分配金額が変わる場合、あるいは分配金が支払われない場合があります。

基準価額の推移

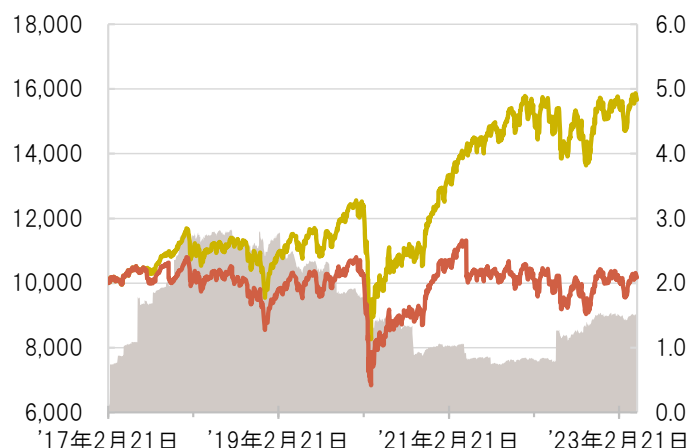
(3ヵ月決算型)

(期間: 2016年2月9日(設定日)～2023年5月8日)



(3ヵ月決算型)為替ヘッジあり

(期間: 2017年2月21日(設定日)～2023年5月8日)



■ 純資産総額(億円)【右軸】 ■ 基準価額(分配金再投資)(円)【左軸】 ■ 基準価額(円)【左軸】

・基準価額、基準価額(分配金再投資)は、運用管理費用(信託報酬)控除後の値です。・信託報酬率は、後記の「ファンドの費用」に記載しています。
・基準価額(分配金再投資)は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。

・上記は、過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。
また、税金・手数料等を考慮していません。

先進国好配当株式ファンド(3ヵ月決算型)／(3ヵ月決算型)為替ヘッジあり

市場環境について

■当期の市場環境

＜先進国株式市場＞

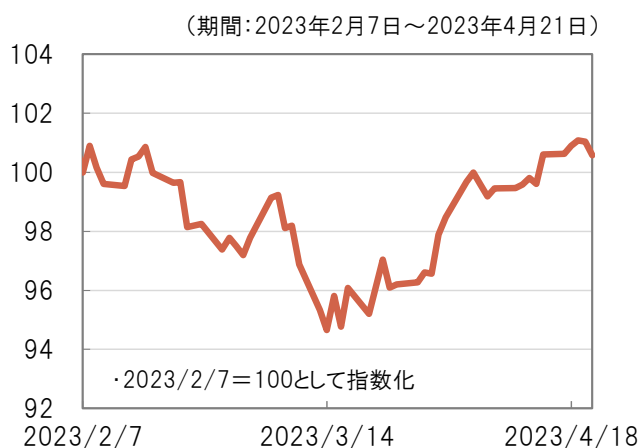
- ・当期の先進国株式市場は、2023年4月21日時点で小幅に上昇しました。
- ・欧米金融システム不安などへの懸念から下落する局面も見られましたが、欧米当局の金融安定化への姿勢などによる不安後退や米国における年内利下げ期待の高まりを受けて、先進国株式市場は反転し上昇しました。

＜為替市場＞

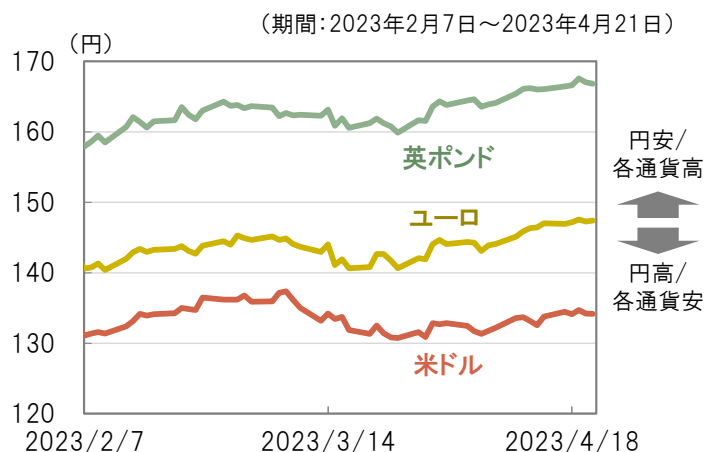
- ・当期の主要通貨(米ドル、ユーロ、英ポンド)は、円に対して上昇しました。
- ・米連邦準備理事会(FRB)が政策金利を高水準とする中、日本では日銀新総裁就任後も金融緩和政策が継続するとの見方が強まったことを背景に、米ドルは円に対して上昇しました。

(2023年4月21日現在)

先進国株式の推移(現地通貨ベース)



主要通貨の推移(対円)



(出所) Bloombergのデータを基に三菱UFJ国際投信作成
 ・先進国株式の推移は、市場環境(先進国株式)の推移をお伝えするものであり、当ファンドのベンチマークではありません。・先進国株式は指数(MSCI ワールド インデックス)を使用しています。MSCI ワールド インデックスとは、MSCI Inc.が開発した株価指数で、世界の先進国で構成されています。同指数に対する著作権およびその他の知的財産権はすべてMSCI Inc.に帰属します。
 ・指数は、当ファンドの基準価額の算出基準日に対応する現地時間に基づき記載しております。

■今後の市場見通し

- ・先進国株式市場は、当面、一進一退の動きが続くとみています。
- ・金利上昇への懸念が後退し、企業の財務体質が注目されたことから、3月中旬以降市場上昇をけん引したのは大型グロース株(成長株)でした。しかしこれまでの株価上昇で、すでに割安感が薄れていることもあり、多少の好材料では相場は反応しづらくなっているとみられます。
- ・米国が利上げサイクルの終盤にあることは中長期的に株価への追い風になるとみており、インフレのピークアウトで利下げが視野に入りつつあることは、相場の支えになると考えています。
- ・一方、債券市場における逆イールド(一般に、短期金利より長期金利が低い状態)の常態化や、銀行の企業向け融資姿勢の急速な厳格化を背景に、米国景気の先行きに警戒感が強まっています。利上げ効果の浸透などを背景に景気後退リスクが高まる場合や、反対に景気の底堅さからインフレが高止まりし、金融引き締め局面の長期化が意識される場合には、一定程度の株価調整は避けられないとみています。

(2023年4月21日現在)

・上記は、過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。

先進国好配当株式ファンド(3ヵ月決算型)／(3ヵ月決算型)為替ヘッジあり

当ファンドについて

■当期の運用状況

- **(3ヵ月決算型)**: 保有銘柄の株価上昇がプラスに寄与したことや米ドルなどの通貨が円に対して上昇したため、2023年4月21日時点の基準価額(分配金再投資)は期初よりも上昇しました。
- **(3ヵ月決算型)為替ヘッジあり**: 保有銘柄の株価上昇がプラスに寄与したため、2023年4月21日時点の基準価額(分配金再投資)は期初よりも小幅に上昇しました。
- ・ 個別銘柄では、「マイクロソフト」や「BTグループ」の株価が上昇したことなどがプラスに寄与した一方、「アメリカ・プライズ・ファイナンシャル」や「ウェルズ・ファアゴ」の株価が下落したことなどがマイナスに影響しました。

＜主な投資行動＞

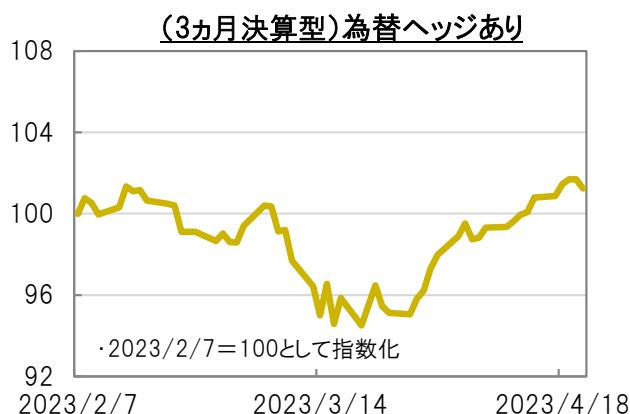
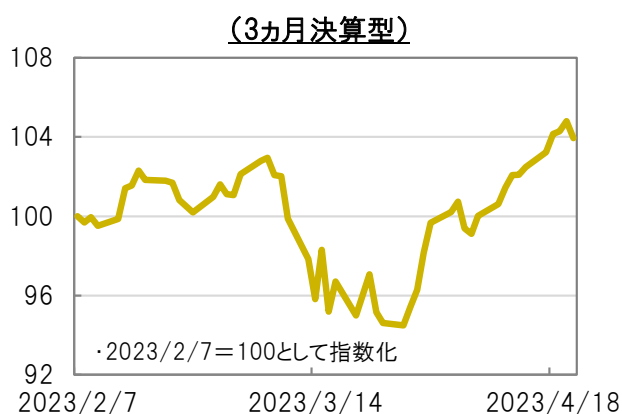
- ・ 金利収益の改善や株主還元強化が期待されること、株価の割安度などを評価して、「三菱UFJフィナンシャル・グループ」(日本、総合金融グループ)を新規に組み入れました。一方、株価の相対的な割安度の判断などを踏まえ、「ラザード」(アメリカ、資産運用・金融サービス会社)の全部売却を行いました。

(2023年4月21日現在)

・ 上記は、個別銘柄の推奨を目的とするものではなく、当ファンドにおいて上記の銘柄を組み入れることを示唆・保証するものではありません。国は原則、主要取引所所在地で分類しています。

当ファンドの基準価額(分配金再投資)の推移

(期間: 2023年2月7日(前期決算日)～2023年4月21日)



・ 基準価額(分配金再投資)は、運用管理費用(信託報酬)控除後の値です。・ 信託報酬率は、後記の「ファンドの費用」に記載しています。
 ・ 基準価額(分配金再投資)は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。

■当ファンドの運用方針

- ・ 先進国では深刻な景気後退が回避され、2023年後半以降には利下げ議論が本格化するとの見通しを持つものの、米国景気の腰折れやインフレ高止まりによる金融引き締め長期化などのリスクについて、引き続き注視しています。
- ・ 不透明な経済環境下において、長期投資家として個別企業の本質的価値を十分に見定めた上で投資を行うという、基本的スタンスの重要性は一段と高まっていると考えています。
- ・ 特にインフレ耐性の強弱に応じて、個別企業の株主還元姿勢(復配や増配、自社株買い戻し再開の時期や規模など)にも格差が生じる可能性が高いと考えられます。そのため、強固な財務体質やブランド力、高付加価値製品の有無、優れた技術力を背景に価格決定力を有し、安定的に潤沢なフリーキャッシュフローの創出が可能で、かつ長期的な株主価値増大の観点から展開事業の成長性に応じて適切な財務規律を維持できる企業に、これからも着目していきます。
- ・ 引き続き、より割安と判断される銘柄への入れ替えなどを随時行っていく方針です。

・ 市況の変動等により、上記の運用方針通りの運用が行えない場合があります。

(2023年4月21日現在)

・ 上記は、過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。また、税金・手数料等を考慮していません。

先進国好配当株式ファンド(3ヵ月決算型)／(3ヵ月決算型)為替ヘッジあり

ファンドの目的・特色

■ファンドの目的

世界主要先進国の株式を実質的な主要投資対象とし、値上がり益の獲得および配当収益の確保をめざします。

■ファンドの特色

- 特色1 世界主要先進国の株式を主要投資対象とし、割安で好配当が期待される株式に投資を行います。
- ・株式の組入比率は、原則として高位を保ちます。
 - ※当ファンドでは、MSCI ワールド インデックス(米国のMSCI社が算出・公表している、日本を含む主要先進国の株式を対象とした株価指数)の構成国を「世界主要先進国」としています。
 - ※好配当銘柄とは、予想配当利回りおよび財務の健全性が相対的に高いと委託会社が判断した銘柄をいいます。
 - ※ポートフォリオのリスク分散上、委託会社が必要と認めた場合には、好配当銘柄以外についても組入れる場合があります。
- 特色2 信用力が高いと考えられる企業へ投資することで、ファンドの安全性を高め、安定的な収益の獲得をめざします。
- ・原則として、取得時においてS&P社もしくはMoody’s社による投資適格の長期発行体格付けを有する企業に投資を行います。
 - ※格付けを有しない企業にも投資を行う場合があります。
 - ・一般的に、信用力の高い企業は良好な財務体質を有していると考えられます。
 - ※あくまでも一般的な傾向であり、実際は異なる場合があります。
- 特色3 30年超の運用実績に裏付けられた独自の割安評価手法を持つUBSアセット・マネジメント株式会社からアドバイスを受け、運用を行います。
- 特色4 <(3ヵ月決算型)>
- 原則として、為替ヘッジは行いません。
- <(3ヵ月決算型)為替ヘッジあり>
- 原則として為替ヘッジを行い、為替変動リスクの低減をはかります。
- ・実質組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行います。なお、為替ヘッジが困難な一部の通貨については、当該通貨との相関等を勘案し、他の通貨による代替ヘッジを行う場合があります。
- 特色5 <(3ヵ月決算型)> / <(3ヵ月決算型)為替ヘッジあり>
- 年4回の決算時(2・5・8・11月の各7日(休業日の場合は翌営業日))に収益の分配を行います。
- ・分配金額は委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。ただし、分配対象収益が少額の場合には、分配を行わないことがあります。
- 将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。

■ファンドのしくみ

- ・ファミリーファンド方式により運用を行います。
- <当ファンドが主要投資対象とするマザーファンド>
- グローバル株式インカム マザーファンド

市況動向および資金動向等により、上記のような運用が行えない場合があります。

投資リスク

■基準価額の変動要因

ファンドの基準価額は、組み入れている有価証券等の価格変動による影響を受けますが、これらの運用により信託財産に生じた損益はすべて投資者のみなさまに帰属します。したがって、投資者のみなさまの投資元本が保証されているものではなく、基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。投資信託は預貯金と異なります。

ファンドの基準価額の変動要因として、主に以下のリスクがあります。

株価変動 リスク	株式の価格は、国内および国際的な政治・経済情勢、発行企業の業績、市場の需給関係等の影響を受け変動します。株式の価格が変動すれば当ファンドの基準価額の変動要因となります。
為替変動 リスク	<(3ヵ月決算型)> ファンドは、主に米ドル建等の有価証券に投資します(ただし、これらに限定されるものではありません。)。外貨建資産に投資を行いますので、投資している有価証券の発行通貨が円に対して強く(円安に)なればファンドの基準価額の上昇要因となり、弱く(円高に)なればファンドの基準価額の下落要因となります。 <(3ヵ月決算型)為替ヘッジあり> 組入外貨建資産については、為替ヘッジにより為替変動リスクの低減を図りますが、為替変動リスクを完全に排除できるものではありません。なお、為替ヘッジが困難な一部の通貨については、当該通貨との相関等を勘案し、他の通貨による代替ヘッジを行う場合があります。その場合、為替ヘッジ効果が得られない可能性や、円と当該通貨との為替変動の影響を受ける可能性があります。為替ヘッジを行う場合で円金利がヘッジ対象通貨の金利より低いときには、これらの金利差相当分のヘッジコストがかかることにご留意ください。ただし、為替市場の状況によっては、金利差相当分以上のヘッジコストとなる場合があります。

上記は主なリスクであり、これらに限定されるものではありません。

ご購入の際には、必ず投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

先進国好配当株式ファンド(3ヵ月決算型)／(3ヵ月決算型)為替ヘッジあり

投資リスク（続き）

■その他の留意点

- ・投資信託（ファンド）の分配金は、預貯金の利息とは異なり、投資信託の純資産から支払われますので分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。なお、分配金の有無や金額は確定したものではありません。
- ・分配金は、計算期間中に発生した収益（経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益）を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間における当ファンドの収益率を示すものではありません。
- ・受益者の個別元本によっては、分配金の一部ないしすべてが、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上りが小さかった場合も同様です。
- ・当ファンドは、ファミリーファンド方式により運用を行います。そのため、当ファンドが投資対象とするマザーファンドを共有する他のベビーファンドの追加設定・解約によってマザーファンドに売買が生じた場合などには、当ファンドの基準価額に影響する場合があります。
- ・当ファンドのお取引に関しては、クーリングオフ（金融商品取引法第37条の6の規定）の適用はありません。
- ・当ファンドは、大量の解約が発生し短期間で解約資金を手当てする必要性が生じた場合や主たる取引市場において市場環境が急変した場合等に、一時的に組入資産の流動性が低下し、市場実勢から期待できる価格で取引できないリスク、取引量が限られてしまうリスクがあります。これにより、基準価額にマイナスの影響を及ぼす可能性や、換金の申込みの受け付けが中止となる可能性、換金代金のお支払が遅延する可能性があります。

手続・手数料等

■お申込みメモ

購入単位	販売会社が定める単位／販売会社にご確認ください。
購入価額	購入申込受付日の翌営業日の基準価額 ※基準価額は1万口当たりで表示されます。基準価額は委託会社の照会先でご確認ください。
換金単位	販売会社が定める単位／販売会社にご確認ください。
換金価額	換金申込受付日の翌営業日の基準価額から信託財産留保額を差引いた価額
換金代金	原則として、換金申込受付日から起算して5営業日目から販売会社においてお支払いします。
申込不可日	次のいずれかに該当する日には、購入・換金はできません。 ・ニューヨーク証券取引所、ロンドン証券取引所、ロンドンの銀行の休業日 ※具体的な日付については、委託会社のホームページ（「ファンド関連情報」内の「お申込み不可日一覧」）をご覧ください。
申込締切時間	原則として、午後3時までに販売会社が受付けたものを当日の申込分とします。
換金制限	各ファンドの資金管理を円滑に行うため、大口の換金のお申込みに制限を設ける場合があります。
購入・換金申込受付の中止及び取消し	金融商品取引所等における取引の停止、外国為替取引の停止、その他やむを得ない事情があるときは、購入・換金のお申込みの受付を中止すること、およびすでに受付けた購入・換金のお申込みの受付を取消すことがあります。 また、信託金の限度額に達しない場合でも、各ファンドの運用規模・運用効率等を勘案し、市況動向や資金流入の動向等に応じて、購入の申込みの受付を中止することがあります。
スイッチング	各ファンドおよび「先進国好配当株式ファンド(年2回決算型)」・「先進国好配当株式ファンド(年2回決算型)為替ヘッジあり」の間でスイッチングが可能です。 販売会社によっては、一部のファンドのみの取扱いとなる場合やスイッチングの取扱いを行わない場合があります。 スイッチングを行う場合の購入時手数料は、販売会社が定めています。また、スイッチングにより解約をする場合は、信託財産留保額が差引かれ、解約金の利益に対して税金がかかります。 くわしくは販売会社にご確認ください。
信託期間	2025年11月7日まで ■(3ヵ月決算型)：2016年2月9日設定 ■(3ヵ月決算型)為替ヘッジあり: 2017年2月21日設定
繰上償還	各ファンドの受益権の口数が10億口を下回ることとなった場合等には、信託期間を繰上げて償還となることがあります。
決算日	毎年2・5・8・11月の7日(休業日の場合は翌営業日)
収益分配	年4回の決算時に分配を行います。販売会社との契約によっては、収益分配金の再投資が可能です。
課税関係	課税上は、株式投資信託として取扱われます。個人受益者については、収益分配時の普通分配金ならびに換金時および償還時の譲渡益に対して課税されます。NISA（少額投資非課税制度）およびジュニアNISA（未成年者少額投資非課税制度）の適用対象です。税法が改正された場合等には、変更となることがあります。くわしくは投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。

ご購入の際には、必ず投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

先進国好配当株式ファンド(3ヵ月決算型)／(3ヵ月決算型)為替ヘッジあり

■ファンドの費用

お客さまが直接的に負担する費用

購入時手数料	購入価額に対して、 上限3.30%(税抜 3.00%) (販売会社が定めます) (購入される販売会社により異なります。くわしくは、販売会社に確認してください。)
信託財産留保額	換金申込受付日の翌営業日の基準価額に 0.25% をかけた額

お客さまが信託財産で間接的に負担する費用

運用管理費用 (信託報酬)	各ファンドの日々の純資産総額に対して、 年率1.375%(税抜 年率1.250%) をかけた額
その他の費用・ 手数料	監査法人に支払われる各ファンドの監査費用・有価証券等の売買時に取引した証券会社等に支払われる手数料・有価証券等を海外で保管する場合、海外の保管機関に支払われる費用・その他信託事務の処理にかかる諸費用等についても各ファンドが負担します。 ※上記の費用・手数料については、売買条件等により異なるため、あらかじめ金額または上限額等を記載することはできません。

※運用管理費用(信託報酬)および監査費用は、日々計上され、各ファンドの基準価額に反映されます。毎決算時または償還時に各ファンドから支払われます。

※上記の費用(手数料等)については、保有金額または保有期間等により異なるため、あらかじめ合計額等を記載することはできません。

なお、各ファンドが負担する費用(手数料等)の支払い実績は、交付運用報告書に開示されていますのでご参照ください。

本資料のご利用にあたっての注意事項等

●本資料は、三菱UFJ国際投信が作成した資料です。投資信託をご購入の場合は、販売会社よりお渡しする最新の投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認ください。●本資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。●本資料は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性等を保証するものではありません。●本資料中のグラフ・数値等は、過去の実績・状況であり、将来の市場環境等や運用成果等を示唆・保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。●投資信託は、預金等や保険契約とは異なり、預金保険機構、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。銀行等の登録金融機関でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の補償の対象ではありません。●投資信託は、販売会社がお申込みの取扱いを行い委託会社が運用を行います。

- 委託会社(ファンドの運用の指図等)

三菱UFJ国際投信株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第404号

加入協会：一般社団法人 投資信託協会

一般社団法人 日本投資顧問業協会
- 受託会社(ファンドの財産の保管・管理等)

三菱UFJ信託銀行株式会社
- <ホームページアドレス><https://www.am.mufg.jp/>

<お客さま専用フリーダイヤル> 0120-151034

(受付時間 営業日の9:00～17:00)

ご購入の際には、必ず投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

先進国好配当株式ファンド(3ヵ月決算型)／(3ヵ月決算型)為替ヘッジあり

販売会社情報一覧表

商号	登録番号等	日本証券業協会	一般社団法人 日本投資顧問業協会	一般社団法人 金融先物取引業協会	一般社団法人 第二種金融商品取引業協会
岡三証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第53号	○	○	○	○
丸三証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第167号	○			

・商号欄に＊の表示がある場合は取次販売会社です。・商号欄に(※)の表示がある場合は新規申込のお取扱いを中止しております。

ご購入の際には、必ず投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。